

日本工業標準調査会 標準部会（第51回） 議事要旨

1. 日時 平成20年 5月23日（金） 14:00～16:00
2. 場所 経済産業省本館第2・3共用会議室（本館17階東6・7）
3. 出席者 二瓶部会長、大山委員、松田代理（小野委員）、塩沢委員、菅原委員、島村代理（田中委員）、中西委員、長谷川委員、樋口委員、前原委員、宮入委員、宮沢委員、矢萩委員、若井委員

4. 議題

- 議題1 第50回標準部会（書面審議）の結果報告について【報告】
- 議題2 国際標準化アクションプラン及び平成20年度工業標準化業務計画について【審議】
- 議題3 人材育成政策特別委員会の進捗状況について【報告】
- 議題4 専門委員会に属すべき者の指名について【審議】
- 議題5 その他

5. 議事概要

主な意見等は次のとおり。

(1) 議題1

事務局から資料2に基づき報告があった。

(2) 議題2

事務局から資料3～資料5-2に基づき説明があり、国際標準化アクションプラン及び平成20年度工業標準化業務計画については了承された。主な意見等は次のとおり。

- 昨今、カーボンナノチューブについては、発ガン性を有するのではないかとの報道がなされており、経済産業省として情報があれば提供して欲しいとの要望があった。これに対し事務局より、産業技術総合研究所等の国内研究機関を含めOECD等世界で研究が進められているところであり、注視してい

きたいとの回答があった。

- ISO/TC149/SC1の幹事国として立候補しているとのことだが、自転車は大半を中国からの輸入に頼っている。生産国である中国と協力して進めていくことで良い成果が出るのではないかと。
- リコール社告のJISについては、推進していく必要があるが、例示を増やして欲しい。
- 介護用ベッド等の手すり構造、強度等についてのJISを制定することだが、介護用ベッドは主に障害者や高齢者が仕様するものであり、リスクアセスメントを十分に行って欲しいとの意見があった。これに対し事務局より、今後、ベッド用サイドレールの規格化を進めるなど、トータルで介護用ベッドに関する規格化を進めていきたいとの回答があった。
- 消費者の視点に立った標準化に関する取り組みについて、消費者に標準化に関する研修を行うならば、研修に参加した人材が規格の作成プロセスに参画できる仕組みを作りたい。
- プロジェクトマネジメントについては、PC設立の際に反対していたと認識しているが、日本で総会を開催する意図はなにかとの質問があった。これに対し、事務局より、PC設立の際は内容が不明であったため反対の立場をとったが、設立された限りは、不利益な国際規格が策定されないためにも日本の意見を入れていきたいとの回答があった。
- 電子技術分野では日本の幹事国引き受け数が多いが、なぜ日本の引き受け数が多いかという分析は行っているのかとの質問があった。これに対し、事務局より、企業がマーケットをどのように見ているかであり、電子技術分野では国際的なマーケットに参入する意気込みが強いと感じる。さらに、関係する大学の教授の積極的な参加があり、産学の雰囲気が良いことが原因ではないかと回答があった。
- マルチメディアの色特性とデジタルカメラの色特性のように、ISOとIECで実態としては同じものが別々の委員会で議論されている。これらを繋げて実施していくのが戦略ではないかと意見があった。これに対し、事務局より、オーバーラップするものは増えてきている。この対応策は二つあり、一つはジョイントして実施する方法、もう一つはJISCとして横目に見て注視していくという方法である。幸いにもJISCはISO、IECの双方の国内団体であり、この利点を生かしていきたいとの回答があった。

(3) 議題3

事務局から資料6に基づき説明の後、以下の意見があった。

- 広く国際標準化に携わる人材を育成していくことは良いが、国際的な場にも通用するリーダーシップのとれる人材育成を目指すのか、または企業等の中

堅クラス等を対象とした人材育成を目指すのか、どのような人材を養成することを目的にしているか。国際的な場に通用する人材育成に力を入れて欲しいとの要望があった。これに対し、事務局より、双方の人材育成を目指している。国際的に通用する人材も重要だが、次世代の標準化人材を育成するためには大学等における教育も必要であるとの回答があった。

- 今の理工系大学生に標準という知識は少ない。このようなレベルに対する人材育成も重要である。また、世界の標準を日本が獲得していくことは、日本の文化的な地位向上にもつながるものである。人材育成の範囲は広くても良いし、もっと長期的に実施することが良いのではないか。
- 産業界における標準化に携わる人材育成は、業界によって温度差がある。社内において標準に携わる人材の地位向上が必要である。
- 標準化と経営戦略・知財の推進・研究開発等異なる分野とは深い関係があり、これらとの関係はどのように考えているのか。

(4) 議題4

事務局から資料7に基づき説明があり、専門委員会に所属する臨時委員の指名については、了承された。